
呪いの人形

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呪いの人形

【Nコード】

N3941H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

高名な霊能者の元にいた私は呪いの人形の存在を信じざるを得ない事件に出会った。

皆さんは「呪いの人形」の存在を信じますか？

私は信じざるを得ない事件に出会いました。

それをこれからお話ししましょう。

私は霊能者の見習いです。高名な霊能者の先生の元で修行中でした。

そんなある日、先生のところにある大富豪の老人が訪れました。

先生はその富豪の老人が訪れるのを予期していたようで、何も尋ねずに奥の間に通しました。

老人は紫色の布に包まれた箱を持っていました。

箱は木製で、高さが30センチほどありました。

「中身は人形ですね」

先生は老人を見て言いました。老人も先生の力を聞き及んでいるのか、その問いに驚くでもなく、小さく頷くと、

「その通りです。この人形に私は悩まされています。何とかして頂けないかと思いましたが」

「箱から出さなくてもその人形の強烈な波動がわかります。何故貴方はそれほどの魔性を吸っている人形をお持ちなのですか？」

先生は箱を見つめたままで尋ねました。老人も箱を見据えて、

「何度も手放そうとしたのですが、どうしたことが、私のところに舞い戻って来るのです」

「なるほど。相当な業を背負った人形のようにですな。それに貴方の守護霊が動揺されています」

「何と？ それほど危険なものですか？」

先生は老人を見て、

「このまま持ち続けなければいつかは貴方の命を吸い取る事になりますよ。私が何とか致します」

「ありがとうございます」

先生は人形を預かる事にし、老人は帰りました。

「これは私の術の間に置く。持って行っておいでくれ」

「は、はい」

私は2人の会話ですっかり萎縮してしまっていて、その箱を手にするのが怖かったが、そんな事は言えないので、震えながらその箱を持ちました。

「？」

私も霊能者の端くれです。しかし、この箱からは何にも感じ取れません。

不思議に思いながら、その箱を「術の間」に運びました。

最初はそんなつもりはなかったのですが、何となく中身を見たくなり、箱の蓋を取りました。

「こ、これは・・・」

私は驚愕しました。箱の中に入っていた人形に見覚えがありました。

先生の居室の押し入れの中にたくさん同じものが並んでいたのを思い出したのです。

「確かに呪いの人形ね」

私は溜息を吐き、蓋を戻しました。

私は理由を言わず、先生のところを辞めました。

皆さん、どうですか？ 確かに「呪いの人形」はあるのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3941h/>

呪いの人形

2011年1月7日14時51分発行